

◆2022年 中学入試算数 講評【聖光学院】

例年通り、小学生である受験生にとって無理のない範囲で、中学受験算数で学んできた知識をもとに試行錯誤したり、抽象化したりする力が求められています。

最近の特徴として、後半で平面図形と立体図形の総合的な問題が目立ちますが、今年は場合の数、整数、点・図形の移動に偏って出題されていました。

また「考えられるものをすべて答えなさい」という出題が近年多くなりましたが、今年も大問の後半の問題でそのような出題が目立ちました。そういった出題形式含め、同校は、限られた時間の中で、受験生が取り組みやすく、選抜試験としても機能しやすい点にとっても工夫していることが見かけられます。

例えば、大問5は、前半に答えることとして要求された二つのグラフが、後半の大ヒントになっていますが、同校が求めるような学習をしてきた子にとっては自然にわかりそうで、そうでない子にはなかなか気づきにくそうな、絶妙な具合です。そしてそこに気づいてしまえば、短時間で答えに辿りつけるため、限られた時間でできるだけ多様な出題をしたい入試問題にふさわしい、見事でお洒落な問題だと筆者は思います。